

初期症状が重要な副作用について No. 5

★ 顎骨壊死 (がっこつえし : Osteonecrosis of the Jaws)

顎骨壊死とは、あごの骨の組織や細胞が局所的に死滅し、骨が腐った状態になることです。あごの骨が腐ると、口の中にもともと生息する細菌による感染が起こり、あごの痛み、腫れ、膿が出るなどの症状が出現します。

症 状

「口の中の痛み、特に抜歯後の痛みがなかなか治まらない」
「歯ぐきに白色あるいは灰色の硬いものが出てきた」
「あごが腫れてきた」「下くちびるがしびれた感じがする」
「歯がぐらついてきて、自然に抜けた」



以下のような薬剤を使用していて、このような症状が見られた場合は、
放置せず、必ず主治医に伝えてください!!

原 因

ビスホスホネート系薬剤と呼ばれる薬剤と顎骨壊死との関連性が注目されています。

この薬剤による治療中に、抜歯などの歯科処置、あご付近への放射線治療などの治療を受けた場合に生じやすいとされています。その他、がん化学療法やステロイド薬を併用している場合にも注意が必要です。抜歯などを行った後、顎骨壊死が生じるまでの期間は3~12ヶ月と報告されています。

ビスホスホネート系薬剤とは・・・

① 注射薬 (ゾメタ®など)

悪性腫瘍 (がん) の骨への転移、悪性腫瘍による高カルシウム血症の治療に用いられます。

② 内服薬 (フォサマック®, ベネット®など)

骨粗しょう症の治療に用いられます。



予防方法は・・・

顎骨壊死は、口の中が不衛生な状態において生じやすいとされています。

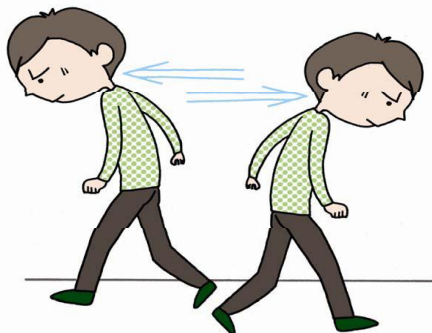
従って、定期的に歯科を受診し、歯ぐきの状態のチェックを受け、ブラッシング指導、歯石の除去などを受けておくことが大切です。

その際には、ビスホスホネート系薬剤の投与を受けていることを必ず歯科医師にお伝えください。

★ アカシジア (akathisia) (静座不能症)

症 状

「体や足がソワソワしたりイライラして、じっと座っていたり、横になっていたりで
きず、動きたくなる」「じっとしておれず、歩きたくなる」「体や足を動かしたく
なる」「足がむずむずする感じ」「じっと立ってもおれず、足踏みしたくなる」など



以下のような薬を使用していて、このような症状がみられた場合は、
放置せず、必ず主治医に伝えてください！！

原 因

原因となりうる薬剤は主に抗精神病薬ですが、抗うつ薬、制吐薬、胃腸薬なども原因となることがあります。多くの場合には、服用を始めて数日後に出現しますが、数カ月間以上同じ薬を飲み続けた後に出現する場合もあります。症状は可逆的で原因薬剤の中止や減量によって消失または軽減しますが、自己判断での中止は絶対にしないでください。

★薬剤性難聴 (Drug-induced hearing loss)

症 状

「聞こえづらい」「ピーやキーンという耳鳴りが
する」「耳がつまった感じがする」「ふらつく」



以下のような薬を使用していて、このような症状がみられた場合は、
放置せず、必ず主治医に伝えてください！！

原 因

薬剤によって難聴が引き起こされる場合があります。原因になりやすい薬剤は次の①～④です。

- ① アミノグリコシド系抗菌薬 (ストレプトマイシンなど)
- ② 抗がん剤 (シスプラチン)
- ③ 解熱消炎鎮痛剤 (アスピリンなど)
- ④ ループ利尿剤 (フロセミドなど)

①②・・・一旦生ずると治りづらい
③④・・・投与を中止すると回復